

研究計画書

ゼミ名	春日ゼミⅡ	チーム名	アクアリウム
タイトル	水族館の未来		
テーマ群	a)理論・情報 e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>2017 年は神戸港が開港 150 周年を迎えるため、種々のイベントが企画・開催されている。このような状況に触発され、我々のチームは、海の生物を多く飼育・展示するという意味で大変関係の深い水族館の実態と今後について、調査・分析を行うこととした。</p> <p>水族館は博物館の一つとして定義されており、①教育、②研究、③自然保護、④地域貢献といった 4 つの公的機能を果たしていると言われている。通常イメージするレクリエーションは④の機能の中に含まれ、水族館の機能の一部でしかないが、近年ではこのレクリエーション機能が充実してきており、水族館の集客効果・経済効果も注目を集めている。そこで我々も、この④地域貢献について焦点を当てた分析を行う。対象とするのは、日本動物園水族館協会 (JAZA) に属する水族館である。</p> <p>まず全国の水族館について概要を調べ、特徴的なものについて紹介する。さらに水族館の観客動員数にはどのような要因が寄与しているのかを、データを用いて検証する。特に、人口の多い都市部周辺以外の水族館が集客数を高める要因として、人気のある動物が効果を持つかどうかについて、回帰分析を行って検証する。</p> <p>一方、地域貢献という重要な役割を果たす水族館の経営が悪化することは問題であるため、経営状況について調査し、赤字の水族館がどのくらいあるのか、その原因は何かについて考察する。その際、現地に出向いてヒアリング調査やアンケート調査を行うことも検討する。</p> <p>最後に、赤字の水族館であっても、①～③の機能を重視して存続させるべきか否か、その理由は何か、そのためには何が必要なのか、公的補助に頼らない自律的な存続のためにどのような施策が必要なのか、等について論じることとする。</p>		